

## 2021 年度 IT 講習会に関する報告

大平 哲史<sup>†</sup>, 中村 修也<sup>†</sup>, 甲斐 晶子<sup>†</sup>, 丸山 広<sup>†</sup>

抄録 本報告は、青山学院大学における新入生の必修科目である情報スキル I の単位を取得するために履修する必要がある IT 講習会について、その概要について述べると共に 2021 年度の履修状況の提示および考察を行い、今後の課題について言及する。

キーワード : IT 講習会, 情報スキル I

### 1. はじめに

IT 講習会は、本学全学部の新入生に対して必修科目として位置付けられている情報スキル I 科目における単位取得のために履修する必要がある、情報メディアセンターが主体となって運営する講習会である[1]。情報スキル I 科目は、青山スタンダードの「情報の技能関連科目」におけるコア科目であり、IT 講習会の運営においては青山スタンダード教育機構とも密接に連携している。本科目の特徴は、一般的な座学形式の講義と異なり、履修者自身が学習計画を立て、それに基づいて IT 講習会スキルチェックシステムという CBT システムを活用しつつ段階を踏んで学び、問題点が生じればその都度さまざまな手段を用いて解決するという、いわゆる自学自習形式となっている点にある。自学自習は大学における基本的な学習形態であり、履修者は IT 講習会の履修を通して、日進月歩の情報技術 (IT) の変化に対応できる能力を身に付けることができ、さらに高校までの受動的な学習から大学における能動的な学習へとスムーズな転換を行うことができる。

IT 講習会の具体的な学習内容は以下の 3 点である。

1. 情報モラル・ネチケット (入門編および実践編)
2. PC の基本操作
3. Office アプリケーションの使い方 (文書作成, 表計算, プレゼンテーション)

インターネットの利用は日常的なものとなっているが、その一方で利用上のモラルやマナー(ネチケット)は幅広く浸透しておらず、とりわけインターネット上のソーシャルメディアでの不用意な発言により、何らかのトラブルに巻き込まれたという経験を持つ学生が毎年のように発生している。さらに PC は社会生活における必須ツールとなっており、卒業後も様々な場

で PC に習熟していることが求められている。したがって、IT 講習会で課されるこうした内容を習得することにより、学生は大学を卒業した後に社会人として必要とされる IT の素養を身につけることができる。

そして履修者の自学自習をサポートするのが、教員ではなく IT 講習会補助員 (以下 IT-A) と呼ばれる学生アシスタントであることも IT 講習会の大きな特徴である。IT-A は IT 講習会を修了した学生の中で、書類選考および面接選考に合格後、研修を受けた特に優秀な者達であり、履修者が陥りやすい誤りについて指導するだけでなく、教えることを通じて IT-A 自身も成長できるという好循環が生まれている。

本年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、4 月の後半から 9 月末までは緊急事態宣言下 (6 月中旬から 7 月初めはまん延防止等重点措置期間) での IT 講習会となった。この間、昨年度と同じく感染防止対策を徹底したうえで、2019 年度までと同様に 1~5 時限 (水曜日のみ 4 時限) で IT 講習会を開講した。前期の 4, 5 月および後期の 9, 10 月は、各曜日に受講できる履修者を学生番号末尾の桁の偶数奇数で分けて限定し開講したが、その後は後述する教室における感染防止対策が昨年度よりも進み、また学生の間でのワクチン接種も進んだことから、曜日別の受講指定を解除した。昨年度と同様、自宅でも学習できるように、IT 講習会の自学自習問題に関する解説動画を本学の LMS である CoursePower 上で提供し、さらに後期からは本格的に大学外でも IT 講習会スキルチェックシステムを用いて自学自習可能な環境を整え、学生が学内の自学自習教室以外の様々な場所で学習できるようにする対応をとった。

本報告書では、以下最初に IT 講習会における新型コロナウイルス感染防止対策について記し、青山キャン

<sup>†</sup> 青山学院大学附属情報メディアセンター

パス・相模原キャンパスの 2021 年度 IT 講習会修了状況を報告し、考察を述べ、そして 2017 年度より運用開始した IT-A が履修者から受けた質問を記録している Web ベースの質問記録システムに記録された質問内容について述べ、最後に今後の課題について言及する。なお、昨年度は各曜日に受講できる履修者を学部学科で分けて限定した中での開講であったが、今年度は先述の通り前期と後期の初めを除いて 2019 年度までと同じく 1~5 時限での開講となったため、昨年度との比較に加えて、必要に応じて 2019 年度とも比較しながら述べる。

## 2. IT 講習会における新型コロナウイルス感染防止対策

まず、IT-A および受講する学生に対してはマスクの着用を義務付け、IT 講習会開講時間帯は必ず窓を開けるよう指示した。加えて、IT-A 一人ずつにフェイスガード（図 2-1）を支給し、特に近距離で説明をする際に使用するよう指示した。



図 2-1 IT-A が使用するフェイスガード

次に、スキルチェック受検教室は全て開放し、受講する学生を離れて着席させるように IT-A に指示し、着席させない PC はシャットダウンした上で「着席（利用）禁止」の掲示を行った。着席可能数は、昨年度と異なり各教室において飛沫防止パネルの設置が行われたことと、それに伴い新たに設定された大学の基準に従い 65%程度とした（図 2-2, 2-3, 2-4）。自学自習教室についても同じように着席可能数を 65%程度とした（図 2-5, 2-6）。スキルチェック受検教室、自学自習教室に消毒液とウェットティッシュを設置し、IT-A に手

指消毒をさせると共に、受講する学生に対しても同様に消毒するよう IT-A に指示させた（図 2-7）。



図 2-2 飛沫防止パネルが設置された青山キャンパススキルチェック受検教室（1112 教室）



図 2-3 飛沫防止パネルが設置された相模原キャンパススキルチェック受検教室（B305 教室）

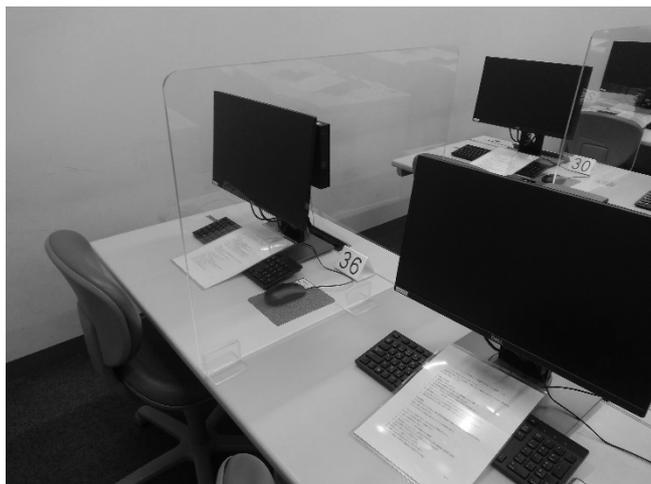


図 2-4 飛沫防止パネルが設置された相模原キャンパススキルチェック受検教室 (B306 教室)



図 2-7 各教室に設置された消毒液とウェットティッシュ (相模原キャンパス B421 教室)



図 2-5 飛沫防止パネルが設置された青山キャンパス自学自習教室 (1113 教室)



図 2-6 飛沫防止パネルが設置された相模原キャンパス自学自習兼用教室 (B421 教室)

一方、IT-A が勤務時間の合間に利用する控室については、青山キャンパスでは引き続きサーキュレーターを設置等新型コロナウイルス感染防止対策をとって使用した。相模原キャンパスでは手荷物置き場および昼食時の休憩スペースとして部屋の一角を確保した。

感染防止対策の一環として、IT-A と受講する学生との間で受検票を直接手渡しせず済むよう、名刺ボックス (図 2-8) を使用して、必要なものはすべてこの中に入れるようにし、毎時限消毒を行った。名刺ボックスの中に入れるものは、受検する学生が記入する受検票、記入済みの受検票、記入済みの受検票に IT-A が受検の記録として押印する確認印のみとした。また、スキルチェック教室入室時のスマホポーチの貸し出しを中止し、その代わりとしてスマートフォンの電源オフと学生各自の手荷物の中への収納を徹底させた。

以上の通り万全の対策をとったうえで、前期と後期の初めを除いて、2019 年度までと同じく 1~5 時限で IT 講習会を開講した。結果的に IT-A には一人の感染者も出ることなく、無事に 2021 年度の IT 講習会を終了することができた。

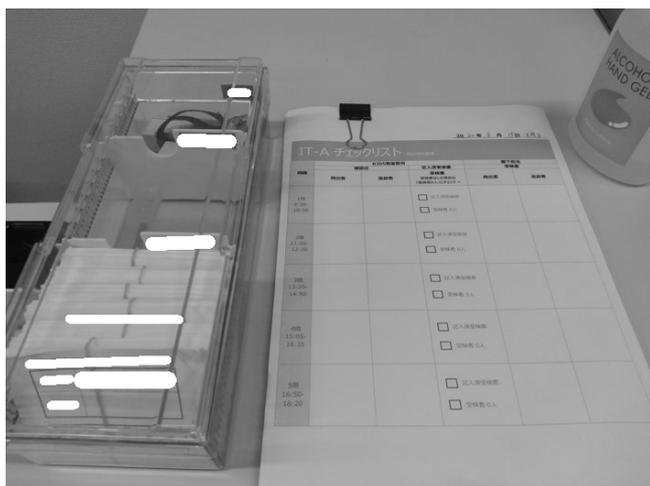
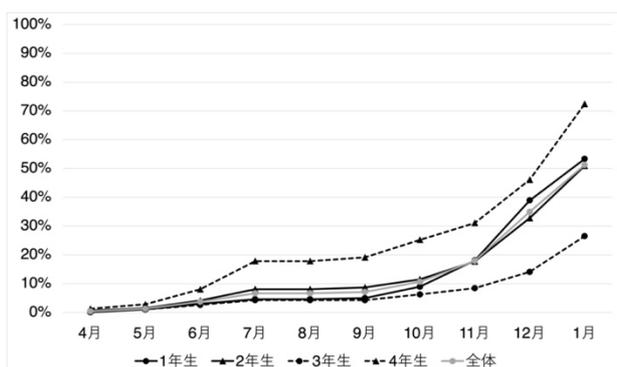


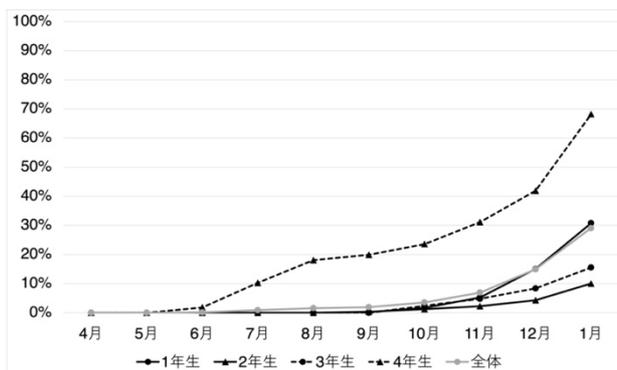
図 2-8 受検票回収用名刺ボックス

### 3. 青山キャンパス IT 講習会報告

青山キャンパスの学年別合格率推移を図 3-1 に示す。2021 年度は 8 月夏季休暇中のため受検実施はないが、2020 年度と比較のため示す。



(a) 2021 年度



(b) 2020 年度

図 3-1 青山キャンパス 1~4 年生合格率時系列推移

2021 年度の履修者数は 1 年生が 3422 人、2 年生が

2329 人、3 年生が 653 人、4 年生が 460 人、合計 6864 人であった。図 3-1(a)に示す通り、最終的な合格率は、1 年生については 53.33%、2 年生については 50.92%、3 年生については 26.49%、4 年生については 72.39%であった。全体では、51.24%の合格率であった。修了者数は 3517 名であった。

2020 年度は 6~8 月は 4 年生のみ受検可とし、1~3 年生は 9 月より受検可としていた。図 3-1 に示す通り、2020 年度と比べて 2021 年度は、どの学年でも合格率が増えており、合格者は全体で約 2.4 倍多いことがわかった。また、一昨年度の 2019 年度の修了者は 3225 名であり、例年よりも修了者は若干多いことがわかった。一方で、2021 年度に修了できていない学生が来年度 3300 名程度履修者となることが考えられる。来年度の新入生と合わせると今年度よりも若干少ない履修者となると考えられることから、新入生だけではなく、2~4 年生の修了に向けたサポートがより一層必要である。

続いて、2020 年度と 2021 年度の青山キャンパス学科別最終合格率を図 3-2 に示す。

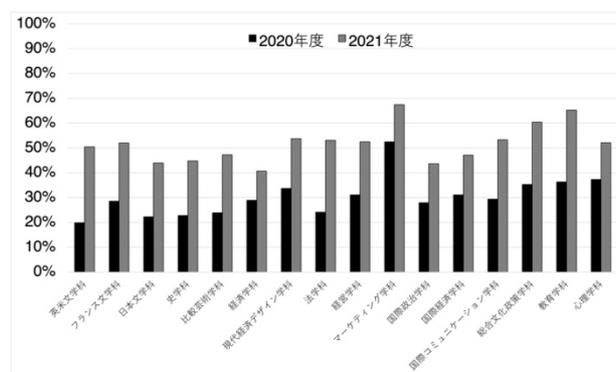


図 3-2 2020 年度と 2021 年度の青山キャンパス学科別最終合格率

学科別にみると、2021 年度はおおむね 40~60%程度の合格率の中、マーケティング学科の合格率が 67.42%と高いことがわかる。2020 年度と比較すると、どの学科においても合格率が上昇していることがわかる。特に 2020 年度に合格率が低かった英米文学科と法学科においては高い上昇率を示しており、昨年度受検を控えていた学生が修了できていたものと思われる。

続いて、各科目の合格者の時系列推移を図 3-3 に示す。

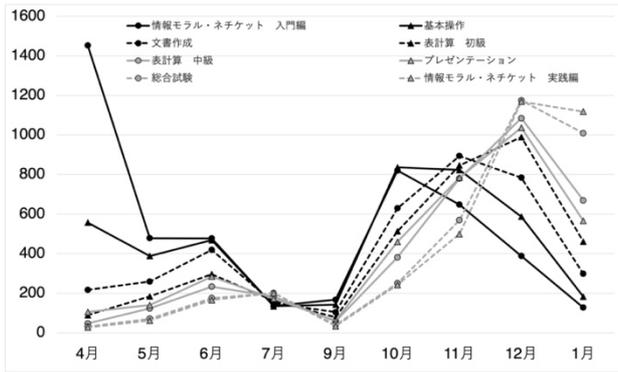


図 3-3 2021 年度の青山キャンパス各科目の合格者の時系列推移

今年度は4月より受検を開始したことで、最初に受検する科目「情報モラル・ネチケッ ト 入門編」の合格者が4月に最も多いことがわかる。最後に受験する科目である「総合試験」と「情報モラル・ネチケッ ト 実践編」は12月に最も合格者が多く、1月にも同数程度合格していることがわかる。受検できる座席の制限や緊急事態宣言下の期間があるなど、受検が一部制限された状況下でも年度内の修了を目指し順次合格をしていった様子が見て取れる。

続いて、図 3-4 に、受検開始から修了までに要した日数別人数を示す。

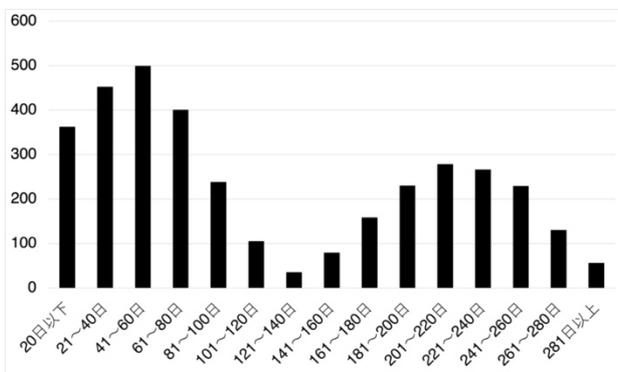


図 3-4 受検開始から修了までに要した日数別人数 (青山キャンパス)

人数では41日～60日かけて終了する学生が多いことがわかる。80日以下で修了する学生が全体の約48.7%であり、おおよそ半数であることがわかった。このことから、一度着手してから約3ヶ月以内で修了する学生が多いことがわかった。平均の修了までに要する日数は約119日ではあるが、これは長期休暇の間の日数もカウントしているため、前期に着手し後期にする場合は160日以上修了に要する日数がかかることが影響している。

最後に、図 3-5 に、Web ベースの質問記録システムを利用して取得した、IT-A が履修者から受けた質問数について、最も多かった質問の上位 10 項目を月別に累積したグラフで示す。登録された質問数は 7809 件であった。

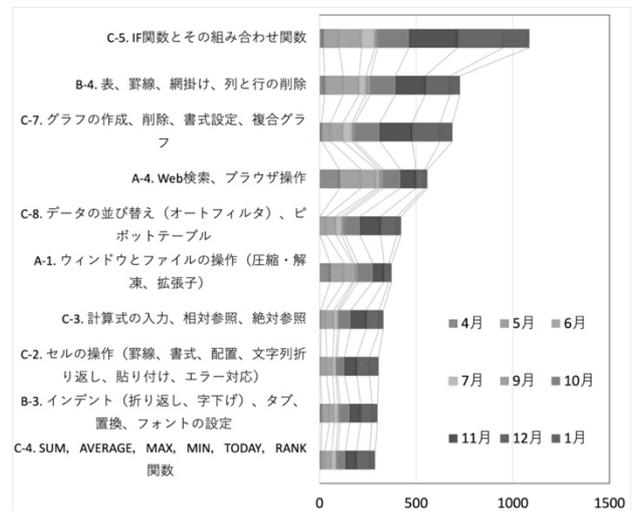


図 3-5 2021 年度青山キャンパス IT-A 質問数 上位 10 項目 (月別累積数)

上位 10 項目のうち 5 項目が表計算に関する質問であり、また、全体の質問数で見ても半分程度が表計算に関する質問であることから、表計算は特に履修生がつまづきやすい科目と考えられる。時期でみると、表計算の合格者が最も多い11月と12月に、表計算に関する質問が多いことが見て取れる。また受検開始の4月と5月には「Web 検索、ブラウザ操作」や「ウィンドウとファイル操作」など、基本的な操作やスキルチェック自体に関する質問が多いことがわかる。これらのことから、表計算に関するサポートを充実させることと、時期を元に、受検・合格者が多い科目を重点的に支援することが重要と考えられる。

#### 4. 相模原キャンパス IT 講習会報告

まず、相模原キャンパスの学年別合格率推移を、図 4-1 から 4-4 に示す。また、相模原キャンパス学科別最終合格率を図 4-5 に示す。2021 年度の履修者数は1年生が 1364 名、2 年生が 793 名、3 年生が 131 名、4 年生が 30 名であった。最終的な合格率は、1 年生については 74.6%、2 年生については 64.2%、3 年生につい

ては 38.9%であった。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴って積極的に受講しなかった 2 年生が、今年度はもう少し受検して修了してほしいところであった。1 年生の合格率も昨年度よりは大幅に向上したとはいえ、2019 年度と比較すると 14%ほど低く、こちらについても少々残念な結果となった。一方で 4 年生について見ると、昨年度は 88.6%であったが、今年度は大幅に減少して 70%であった。なお、4 年生はすべて地球社会共生学部学生である。情報メディアセンターの IT 講習会担当教員と、地球社会共生学部の情報スキル I 科目担当教員が緊密に連携し、最終的には卒業を希望した学生は全員修了しているが、対面での授業が再開される中で、IT 講習会を短期間で修了することが、昨年度と比較して難しくなったことが予想される。

学科別の合格率についてみると、どの学科も昨年度より大きく合格者数を増やしており、理工学部では経営システム工学科と情報テクノロジー学科の合格率が高いことが目につく。化学・生命科学科と機械創造工学科も合格率は 70%を超えている。一方、2 年生以上となる物理・数理学科と 2021 年度に新設された物理科学科および数理サイエンス学科の合格率がやや低くなっている。2022 年度については、理工学部の中では特にこれらの学科の学生について、他の学科の学生よりもより細かいケアが必要である。

理工学部以外の 3 学部についても、昨年度よりは合格率が向上しており、特に社会情報学部の伸びが著しい。今年度から再び IT 講習会の修了が同学部のコミュニケーション基礎科目の単位修得条件となったことによるものであるが、すでに同科目の単位を修得した 2 年生以上の学生も多数合格している。コミュニティ人間科学部についても 26%程度の合格率の向上となっている一方で、やや残念なのが地球社会共生学部である。昨年度は地球社会共生学部の合格率は経営システム工学科に次いで 43.1%と高かったのだが、それから 13%程度しか向上していない。2022 年度は同学部の学生に課される留学が再開されることが予想されるため、これまで以上に早期の IT 講習会修了について促していく必要がある。

2022 年度は、今年度と比較するとやや減少するものの、それでも例年の 1.5 倍程度にあたる 2,000 名ほどの学生が再び IT 講習会を受講することになる。特に理工学部と社会情報学部では情報スキル I 科目の単位修得が 4 年次進級要件になっており、後期の 12 月前半から自学自習教室およびスキルチェック教室に掲載し

ている IT 講習会スケジュールに終了日を目立つように示していたが、とりわけ 1 年次に修了できなかった理工学部・社会情報学部学生に対しては、例年よりも細かいケアが必要である。

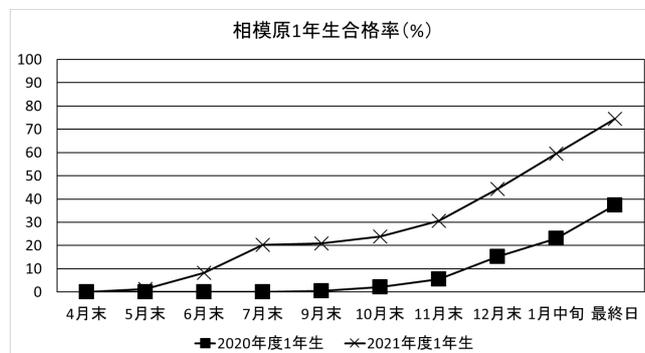


図 4-1 相模原キャンパス 1 年生合格率 (%) 時系列推移

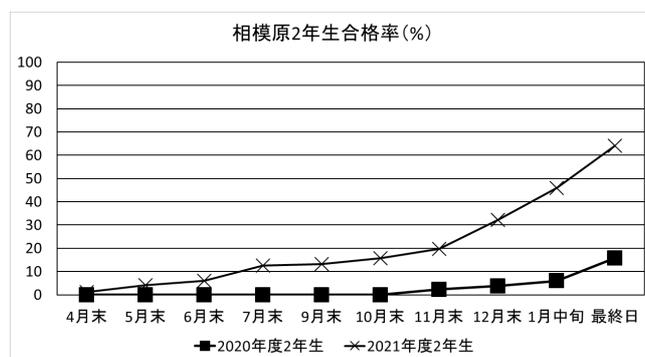


図 4-2 相模原キャンパス 2 年生合格率 (%) 時系列推移

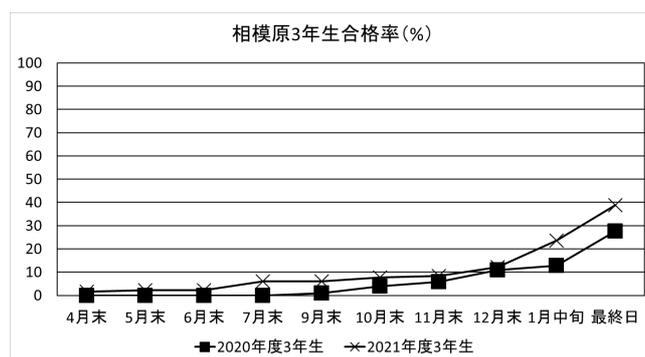


図 4-3 相模原キャンパス 3 年生合格率 (%) 時系列推移

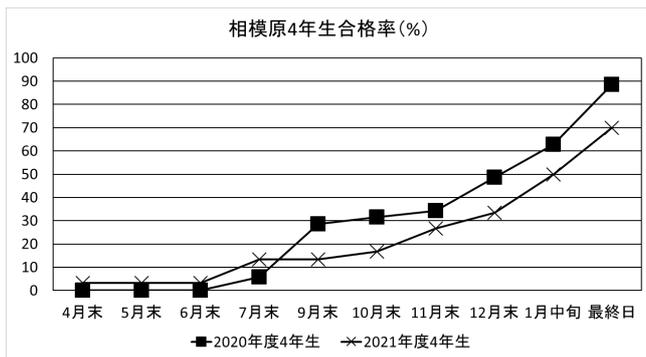


図 4-4 相模原キャンパス 4 年生合格率 (%) 時系列推移

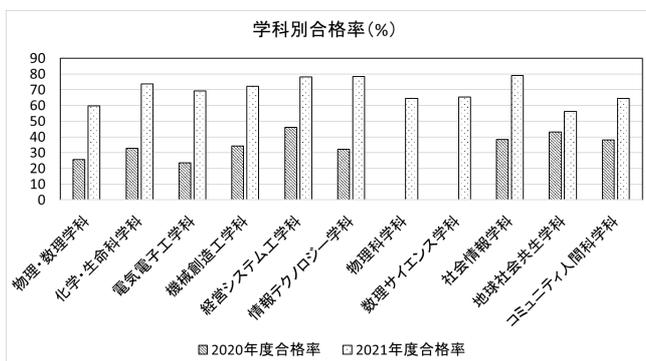


図 4-5 相模原キャンパス学科別最終合格率 (%)

図 4-6 に、受験開始者数と修了者数の推移を示す。昨年度よりも修了者数は 2.8 倍程度と大きく増加しており、傾向は 2019 年度に近い。特に 9 月以降の修了者数に顕著な伸びが見られ、後期に入って全国的に感染者数が落ち着いたことと、特に 1 年生がコロナ禍の大学生活に慣れ、後期に入って IT 講習会の学習をスタートしたことが大きく影響していると考えられる。2019 年度は最終的に受験開始したにもかかわらず終了できなかった学生は 125 名であったが、今年度は 264 名と大きく増えており、昨年度の 166 名よりも多い。全体として修了者が増えた結果ではあるが、できるだけこの人数を減らして、2022 年度以降に再び受講することになる学生数を減らしたいところではあった。

図 4-7 に、受験開始から修了までに要した日数別人数を示す。昨年度はコロナ禍の中での IT 講習会となり、多くの学生が短期間で修了を試みたことがうかがえ、ピークは 61~80 日であったが、21~40 日、41~60 日で修了した学生もかなり多かった。それと比較すると今年度は、ピークは同じく 61~80 日で、引き続き短期集中型の学生が多いものの、2019 年度までのように、200 日以上を要する学生も少なからず存在しており、前期中に着手はしたものの、オンライン授業と

対面授業の両立が難しいなどの理由から、想定よりも学習時間を要した学生がいるものと予想される。

IT 講習会の自学自習問題に関する解説動画と、学外でも IT 講習会スキルチェックシステムを用いた自学自習が可能なアプリを CoursePower 上で提供したことで、キャンパスに来ることなく学習を進めることができるようになったため、キャンパスではスキルチェックのみ受検したという学生も多い。やはり解説動画や自学自習可能なアプリの提供は、キャンパスで受講する学生数を減少させることに貢献しており、2022 年度についても同様の対応を行いたい。一方、キャンパスで実験・実習系の授業が本格的に再開されると、それに伴って自学自習の時間を十分に確保することが困難な学生が増え、早めに着手したとしても修了時期が遅くなるケースが多くなることが予想されるため、そうした学生にとっても時間や場所を選ばずに学習できる解説動画や自学自習可能なアプリの提供はプラスになるものと考えられる。

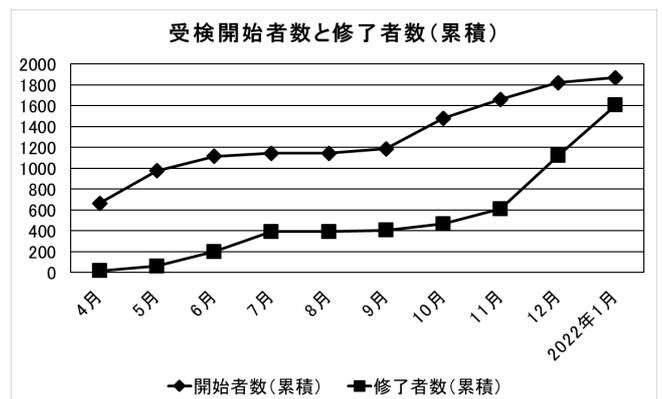


図 4-6 受験開始者数と修了者数の時系列推移 (相模原キャンパス)

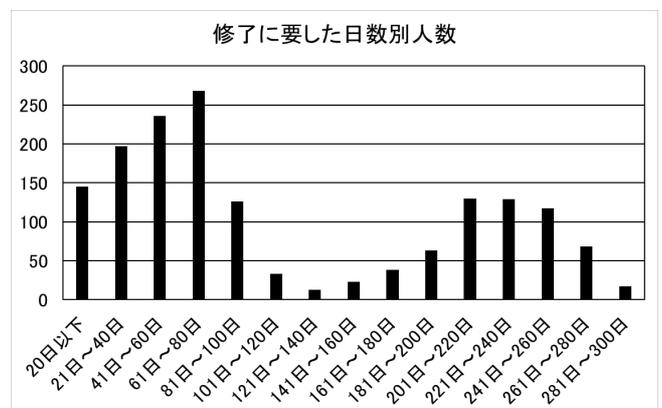


図 4-7 受験開始から修了までに要した日数別人数 (相模原キャンパス)

図 4-8, 4-9 に、Web ベースの質問記録システムを利用して取得した、IT-A が履修者から受けた質問数について、IT 講習会の科目別に前期・後期それぞれ時系列データとして示す。こちらも傾向は 2019 年度に近く、特に前期は地球社会共生学部 の 4 年生と理工学部・社会情報学部 の 3 年生のみを対象とした昨年度前期に比べて、ピーク時の一週間の質問数は 7 倍近くに達している。全体として表計算に関する質問が多く、前期の 5 月と後期の 11 月から 1 月初めにかけてピークとなるのも、2019 年度以前と類似した傾向である。しかし後期の質問数について見れば、ピーク時の値は昨年度と大きな違いはなく、2019 年度以前のピーク時の 1 週間の質問数は 200 件を超えていたことを考えると、大幅に減少していると言える。

これは先述の通り、解説動画や自学自習可能なアプリを CoursePower 上で提供することによって、時間と場所を選ばずに自由に学習することができるようになった結果と考えられ、それは IT 講習会の自学自習というコンセプトにはマッチしているものの、IT-A という人材の育成という面では、その主たる業務である質問対応の機会が減少していることを意味するため、IT 講習会の枠組み全体としてプラスなのかマイナスなのか、判断が難しいところである。

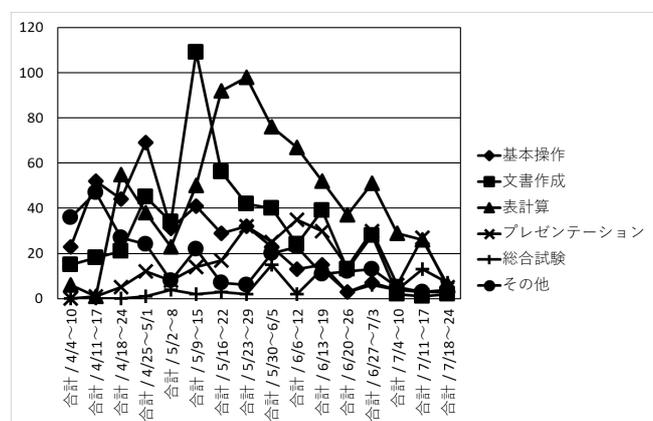


図 4-8 IT-A が履修者から受けた IT 講習会の科目別質問数の時系列推移（相模原キャンパス前期）

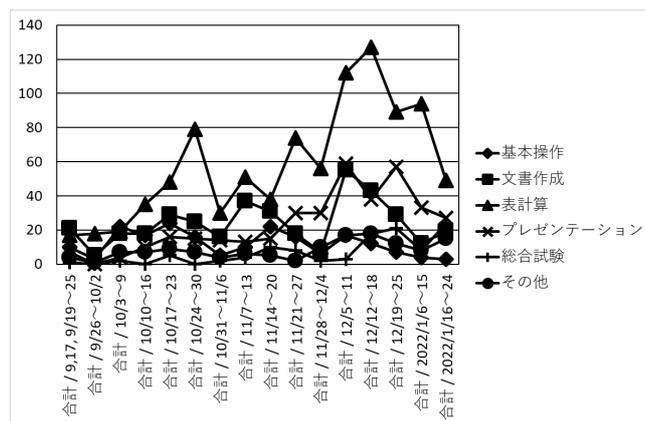


図 4-9 IT-A が履修者から受けた IT 講習会の科目別質問数の時系列推移（相模原キャンパス後期）

## 5. おわりに

IT 講習会は、自学自習形式という特殊性ゆえに、過年度生をはじめとして上手く馴染むことができない一部の学生を生んでいることも事実であるが、2014～2020 年度と同様[1]、2021 年度はこうした学生に対し、情報メディアセンターの IT 講習会担当教員により、授業支援システム CoursePower を利用して細やかなメンタリングを行っただけでなく、各学部の教務課と学生の履修状況を共有し、とりわけ再履修クラスの学生についてその進捗のケアを行い、相模原キャンパスにおいては、地球社会共生学部の情報スキル I 科目担当教員と緊密に連携し、同学部の 4 年生の履修進捗状況に注意を払い、無事単位取得へと導くことができた。

2022 年度についても、各学部の情報スキル I 科目担当教員および教務主任の教員と必要に応じて緊密に連携し、引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を徹底すると共に、各学部からの提案にも真摯に耳を傾け、より合格率を向上させるよう努力していく所存である。

## 参考文献

- [1] 大平哲史, 中村修也, 吉嶺加奈子, 槌屋洋亮, 丸山広: “2020 年度 IT 講習会に関する報告”, 青山インフォメーション・サイエンス, Vol. 48, No. 1, pp.30-36, 2020.